

● グランプリ

「静岡は家康公の作品です」

榎本あや（エイエイピー 浜松支店）

静岡は 家康公の 作品です

征夷大將軍にまで上り詰めた家康公が駿府に戻ったのは、
「気候温暖な地で優雅な隠居生活を送ろう…」と
考えたわけではありませんでした。
戦いに明け暮れた中世から決別し、
平和な時代の幕開けとなる、かつてなかった理想の都市を
ここ駿府の地で建設するためでした。
家康公に集められた職人たちが礎となった伝統の技は、
家具やひな人形、蒔絵、木製模型、プラモデルへと受け継がれ、
何百年もの間、静岡の「ものづくり」を支え続けています。
静岡は、家康公の夢が形になった地であり、
まさに街ごと「家康公の作品」と言えるのではないのでしょうか。



【作品コンセプト】一般的に、晩年の家康はあまり良いイメージを持たれていません。しかし、その実態は年をとっても理想実現に燃え、平和を愛し、外国からも一目置かれる志の高い人物でした。天下人が築いた平和な理想都市は、400年たった今でも静岡の基盤となっています。そんな偉大な家康と静岡の関係を、一言で表すとしたら何だろう…と考えていたら、「静岡は家康公の作品です」という言葉にたどり着きました。デザインでは、家康の外交の象徴である洋時計を展開図にし、家康の好物やゆかりのある特産品をその中に詰め込み、静岡が「家康の作品そのもの」であることを表現しました。